

登録ボランティア
団体紹介

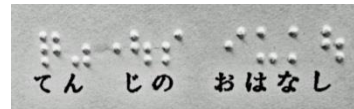
点訳ボランティア 佐世保ありの会



目の不自由な方にとって、触る文字である点字は、生活をする上で情報を得る大切なツールです。『点訳ボランティア 佐世保ありの会』は視覚に障がいのある方へ、墨字(印刷物)の情報を点字にして伝える活動を行ってられます。

バスや電車の時刻表など生活に密着した情報、一般図書、絵本、小学生のためのテスト問題など、様々な印刷物を点訳されています。

本紙「くれよん」も毎号点訳していただき、視覚障がいを持たれてる方々の元へお届けしています。



【点字は、1文字につき6点の突起をさまざまに配置し、ローマ字方式で組み立てられています。】

点訳・音訳 ボランティア養成講座の受講者を募集中です。

視覚障がい者の方の読書や暮らしの情報のため、紙の本を点訳したり、CDに録音(音訳)して、点字図書や録音図書を製作するボランティアを養成する講座です。受講は無料です。

- ◆日時◆ 平成29年9月7日より
毎週木曜13時～16時(全10回)
- ◆会場◆ 【点訳】ボランティアセンター別館
【音訳】県北振興局天満庁舎1階

- ◆受講対象◆
- * 点訳・音訳で自分の力を生かしたい方。
- * 講座修了後も活動できる方。
- * 基本的なパソコン操作が可能な方。

点訳・音訳講座共に説明会を、8月31日(木)13時よりボランティアセンター別館(花園町)で開催します。お申込・お問い合わせは、下記までお願いします。
長崎県視覚障害者情報センター佐世保(TEL:0956-25-3336)



話し相手ボランティア フォローアップ研修を開催しました

6月21日、させば市民活動交流プラザにて「話し相手ボランティアフォローアップ研修」を開催し、話し相手ボランティア登録者30名が参加されました。

講師に「ソーシャルサポートいけだ」代表 池田和枝氏(独立型社会福祉士)を迎え“円滑なコミュニケーションのとり方(傾聴)を学ぼう”をテーマに楽しいワークと講話が行われました。

参加者からは「沈黙を活用するというお話が大変参考になった」「ワークで、自分の印象が他の人にどう映っているのかがよくわかった」「今後の活動の中で、今日の講座を活用したい」などの感想をいただきました。



講座の様子



池田 和枝 氏

災害ボランティア 実践講座開催決定！

『災害ボランティア実践講座～地域を守る住民の“ちから”を集結せよ！～』を開催いたします。

- 【日時】 平成29年9月2日(土)13時～16時
9月3日(日)10時～15時
- 【受講対象】 災害ボランティア活動に関心がある方
ならどなたでも参加できます。
- 【会場】 佐世保市労働福祉センター(稲荷町2-28)
- 【定員】 100名(先着順です。)
- 【主催】 長崎県社会福祉協議会
佐世保市社会福祉協議会

【お問合せ・申込み先】
〒850-0862
長崎市出島町2-11 出島交流会館5階
長崎県社会福祉協議会
ボランティア振興課(担当:宮田まで)
TEL:095-827-4872 FAX:095-827-4862



2017年度 第3号
平成 29年8月1日

特集 佐世保空襲を語り継ぐ会



ちんこんいれいへいわきがん
佐世保空襲 鎮魂慰霊平和祈願の塔

佐世保市ボランティアセンター(社会福祉協議会)
〒857-0864 佐世保市戸尾町 5-1 させば市民活動交流プラザ 1階
TEL:0956-23-3905/FAX:0956-42-0102 E-mail:kureyon@sasebo-shakyo.or.jp
時間/10:00～18:45(火～土) 10:00～17:00(日)
休館日/月曜・祝日・年末年始・プラザの休館日



戦争体験の継承 平和の語り手 佐世保空襲を語り継ぐ会

佐世保市山手地区、名切通りの中央公園に、銀色の背の高いモニュメントと、多くの人の名前が刻まれた碑があります。

それは、佐世保空襲で犠牲になられた方々の慰霊塔(表紙写真)と墓銘碑(写真右)です。

いまから72年前の昭和20年6月28日、佐世保は大空襲に見舞われ、多くの尊い命(お名前が判明している方だけでも1,242名)を失い、6万人を超える人々が被災しました。

その惨劇の記憶、戦争の愚かさを、戦争を知らない世代へ伝えるボランティア活動を行ってられるのが、当センター登録団体の『佐世保空襲を語り継ぐ会』です。

『佐世保空襲を語り継ぐ会』では、市内の小中学校へ“平和教育語り手”の派遣活動や、平和通信「火の雨」の発行、させばエコプラザ(佐世保市地球温暖化防止活動推進センター)内の佐世保空襲資料室の管理など多くの活動を行われています。



長崎県立武道館の入り口の立て札が目印です。



手前:建立由来が刻まれた石碑
奥側:亡くなられた方の墓銘碑



佐世保空襲資料室は、土日(10時~15時)に開館しています。



空襲後の市街地の写真



戦時中の生活が分かる資料も沢山展示されています。



会員の江島 麗介さん
当時の様子や、資料の詳しい解説をしてくださいました。

第35回 佐世保空襲を語り継ぐ市民の集い



会場の様子

去る5月27日(土)旧戸尾小学校の体育館にて、『第35回 佐世保空襲を語り継ぐ市民の集い』が開催されました。

戦争を知らない若い世代から、実際に戦争を体験された方まで、約60人が参加し、戦争が如何にして始まったのか詳しく解説されたDVDの上映や、日中戦争で日本軍が進撃した場所を訪れた牛島 万紀子さんの『長江流域をたずねて』の講話が行われました。

牛島さんは、お話しの最後に「戦争は二度としてはいけません。絶対させてはいけません。そのために私は自分ができることを頑張ります。」と語られました。

参加された方からは「戦争を体験された方の生の声を聴ける機会があって良かったです。今日聴いたことを、戦争を体験していない私たちも、さらに下の世代に伝えて行かなければならないと思いました。」と感想が述べられていました。

第二次世界大戦(太平洋戦争)が終戦して今年で72年目を迎えます。

戦時中、郷土佐世保で何があったのかを私達一人ひとりがよく知り、伝えて行くことが今の平和を守る事につながっていくのではないのでしょうか。

『佐世保空襲を語り継ぐ会』では、会員を募集されています。

ご興味がある方は【TEL:(0956)22-8081 佐世保空襲を語り継ぐ会 山本様】まで、ご連絡ください。



慰霊塔・墓銘碑には慰霊と平和を願う多くの千羽鶴が納められています。



この情報紙は「赤い羽根共同募金」の配分を受けて作成しています。

「サマーボランティア・キャンペーン2017」参加者募集中!

この夏、あなたもボランティアを“体験”してみませんか?

子どもから大人まで誰もが気軽にボランティア活動に参加できる「サマーボランティア・キャンペーン」が今年も7月1日から9月30日まで開催中です。

ボランティア活動に関心があるけれど、なかなか“きっかけ”がないという皆さま、自分に合いそうなものを選んで参加できる企画ですので、是非ご参加をお待ちしています。

ボランティアセンターや社会福祉協議会で配布されているガイドブックをご覧のうえ、ボランティアセンターへ随時お申し込みください。

【体験期間】 7月1日~9月30日の間で受け入れ施設の定める期間

【体験場所】 県内の社会福祉施設等

【体験内容】 ・施設利用者とのふれあいや、介護等の手伝い
・施設行事への参加、協力による利用者とのふれあい ほか



このガイドブックが目印です。

その他、ご不明な点がありましたら、ボランティアセンターまでお問合せください。

親和銀行従業員組合より、使用済み切手を寄贈していただきました

平成29年6月6日、親和銀行従業員組合より、「佐世保国際交流ボランティア協会」を通じてボランティアセンターへ、使用済み切手14キロ分を寄贈して頂きました。ありがとうございました。

当センターでは、使用済みの切手・プリペイドカードを収集し、複数のボランティア団体へ送付しています。

それらは、各種福祉活動の資金として活用されます。

今後も、皆さまのお家に眠っている切手やプリペイドカードなどがありましたら、ご協力をお願いいたします。



ご協力ありがとうございました。

ボランティア入門講座を開催しました

7月8日に「ボランティア入門講座」を、させば市民活動交流プラザにて開催しました。

高校生から70代の方まで幅広い年齢層の29名が参加され、ボランティアを始める際の基礎知識や実践に向けての心構え、実際に活動されている方の体験談や、現在募集中のボランティア情報などを、お伝えしました。



講座の様子



募集の呼びかけを行う、黒髪児童センター職員



個人ボランティア「佐世保の桃太郎」こと、迎あやさんから、活動の動機や楽しさなどをお話しいただきました。

参加者からは「ボランティアを行う上での精神や意義、活動内容などを知ることができました。」「様々なボランティアの種類があることを知り、活動に踏み出す一歩になりました。」などの感想をいただきました。

当センターは、今後も皆さんのボランティア活動への支援協力を行っていきます。